

## ○ご意見の要旨と本市の考え方

	ご意見の要旨	本市の考え方
1. 目標降雨について（1件）		
1	計画降雨が60mm/hから66mm/hに変更になったが、能登豪雨などではこれより多くの雨が降っており、本当に計画降雨を66mm/hとして大丈夫なのか。	本市では、これまで概ね10年に1回発生する降雨に対する整備を進め、浸水解消に一定の効果を得てきましたが、気候変動の影響により将来降雨量が増加すると想定されています。過去の降雨データにより、1951～2021年の間で10年確率降雨を算出すると、53.7～56.7mm/hrとなっており、現在の計画降雨60mm/hrは妥当であることを確認しました。また、気候変動モデルにより、大阪市での1時間雨量の降雨量変化倍率は1.08倍であり、国からの提言における1.1倍と乖離していないことを確認しました。このことから、本市では引き続き、気候変動の影響（1.1倍）を考慮した概ね10年に1回の降雨に対する整備を行います。また、今後は気候変動状況に注視しながら、必要に応じて計画降雨の見直しを検討します。
2. 対策手法について（1件）		
1	ポンプ能力の増強とあるが、地震等で停電した場合、どのような対策を講じているのか。	停電時においても雨水ポンプによる排水機能を確保するため、本市が整備している雨水ポンプは電力会社からの電力供給に頼らないエンジンポンプや自家発電設備を備えています。
3. 事業期間について（1件）		
1	事業完成が2075年となっているが、もう少し早く事業を進めることはできないのか。	大規模な雨水排水施設の整備には長い年月を要することから、まずは浸水被害の大きい床上浸水が想定される箇所の対策を優先して実施し、効率的かつ早期の効果発現が図れる対策を行う等、市民の皆様へ整備効果を実感していただけるよう努めます。
4. その他（5件）		
1	市民への広報活動をしっかり行ってほしい。	これまでに実施している水害ハザードマップの公表や降雨情報の提供、本市下水道科学館や各広報紙、SNS（X、Instagram等）による発信を引き続き実施します。
2	様々な浸水対策を講じていることをもっと市民に発信してほしい。	
3	将来的には、まちの中心は大阪市東部地域に移り、人口分布が変わることも想定し、対策内容を定めるべきではないか。	本市では、「大阪市人口ビジョン（大阪市政策企画室：令和2年3月）」に基づき将来人口を想定しており、大阪城東部地区などのまちづくりの方向性もふまえて、今後の取り組み内容を定めています。
4	浸水被害の大きいところから分流式下水道に変えることはできないのか。	下水道の排除方式には、汚水と雨水を別々の管きよで集めて流す「分流式」と同一の管きよを用いる「合流式」があります。本市では、明治27年の下水道事業着手以来、「合流式」を採用していますが、地形的条件により一部の地域では「分流式」にて整備を行っています。いずれの排除方式においても、必要な能力を確保して整備を進めていることから、引き続き、地形に応じた排除方式を用いて、効率的に整備を進めます。
5	可能な場所から緑地化に努める、市街化調整区域に指定する等の方策は取れないのか。	まちづくりに関するご意見として、関係部署にお伝えさせていただきます。